

小さなオペラ

Mini-opera
"Wooden Spoon"

木の匙

小さなオペラ『木の匙』は、京都芸術センターとの共同で主催する事業を公募するKAC TRIAL PROJECT / Co-programの 카테고리A(共同制作)で選出されました。現在、12月の公演に向け、本企画の発案者であり演出を担当する乃村健一と京都芸術センターが協働で準備を進めています。

小さなオペラ『木の匙』は、1組の男女が出会い、結婚してやがて家族となる過程を、二人のモノローグによって描き出す作品です。古典的なオペラで題材となるような男女の愛憎劇ではなく、穏やかな日常風景や、そこから浮かび上がってくる夫婦の心情に焦点を当てます。

演出家である乃村健一は、モノオペラとミニオペラ『人間の声』『消えた男の日記』(京都芸術センター、2014)、『魔笛』(伊勢市生涯学習センターいせトピア、2014)、『泥棒とオールドミス』(津リージョンプラザ、2015)、『ラ・ボエーム』(ロームシアター京都、2017)などで演出の経験を積むなかで、これから若い世代はどのようなオペラ作品を作っていくべきなのか、と考えるようになったと言います。貴族が登場したり外国語で歌われたりするオペラは、確かに今でも観客を惹きつけています。ただ、現代の日本に住む私たちが時代設定も言語も異なる作品を、そのまま上演し続けるだけで良いのか。オペラの手法を踏襲しつつ、現代の感覚を反映した新しい作品を生み出せないのか——そのような思いから今回の企画が生まれました。

本作品は、ピアノ・ソプラノ・バリトンというシンプルな編成の日本語の歌曲から構成されます。寺山修司作詞・中田喜直作曲の歌曲集『木の匙』に、中田の他の歌曲を組み合わせることで、現代の日本人の感覚により近いオペラを作り出すことを試みます。中田喜直は「めだかの学校」や「小さい秋みつけた」など、私たちに馴染みのある多くの童謡や歌曲を生み出した作曲家です。どこか懐かしいようなメロディーは、決して現代だけにフォーカスしたものではない、夫婦に関する普遍的なテーマを内包していると言えるでしょう。

人物の心情や時代背景を丁寧に描くことを演出では常に心がけているという乃村。小さなオペラの中にどのような風景を見せてくれるのか、ご期待ください。

11月の実際の会場でのリハーサルに、アドバイザーとしてオペラ演出家の松本重孝氏にお越しいただきました。聴きやすい日本語の歌詞で短い歌曲がテンポよく構成されており、オペラ初心者の方にもおすすめです。
奥村麻衣子(アートコーディネーター)



『American Buffalo』(シアトリカル劇団, 2014)

Profile

演出◎乃村健一(のむら けんいち)

大阪府出身。京都市立芸術大学美術科彫刻専攻修了。在学中より「鑑賞者を含む空間そのものを創り出す」という自身が持つ彫刻の考え方の下、舞台での表現に携わる。舞台に関わる活動としては主に、オペラ、バレエ、芝居、コンサートなどの舞台監督、美術、演出部スタッフをつとめ、演出・演出補としても多くの公演に参加している。舞台演出については演出家・松本重孝に師事。2015年には兵庫県立芸術文化センター主催・日本オペラプロジェクト『藤戸』(作曲尾上和彦、演出・岩田達宗)などで装置・舞台監督を務めた。これまでの演出作品に『魔笛』『泥棒とオールドミス』『子どもと魔法』『仏陀』などがあり、2017年9月にはロームシアター京都にて『ラ・ボエーム』の演出を手がけた。現在、京都市立芸術大学オペラクラス非常勤講師(美術・技術・演出部を担当)、大阪音楽大学非常勤講師(舞台研究)などを務めるほか、様々なカンパニーの公演で美術、演出部、舞台監督、技術サポート等に当たっている。



ソプラノ◎乃村八千代(のむら やちよ)

同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻声楽コース卒業、同大学音楽学会《頌啓会》特別専修生修了。京都市立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。第38回堺市新人演奏会優秀賞受賞。第14回ノーヴィ国際音楽コンクール声楽部門最高位受賞。第20回KOBEL国際音楽コンクール最優秀賞、兵庫県教育長賞受賞。第28回宝塚ベガ音楽コンクール第6位。関西歌曲研究会、日本シューベルト協会に所属。合唱団「葡萄の樹」ボイストレーナー。ノートルダム女学院中学高等学校父母の会コーラスクラブ講師。故川島幸子、高野信子、三井ツヤ子の各氏に師事。クリアかつ高みのある声質は宗教曲、バロック楽曲等において高い評価を得る。



バリトン◎砂場拓也(すなば たくや)

京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第61回全日本学生音楽コンクール大阪大会入選、第40回イタリア声楽コンクール入選。オペラでは『フィガロの結婚』のフィガロ、『ラ・ボエーム』のマルチェロ、『椿姫』のジェルモン、『ウィンザーの陽気な女房たち』のフルート、『ラインの黄金』のアルペリヒ等を演じる。歌曲については定評があり、特にドイツ歌曲や日本歌曲を得意とし、楽譜に忠実な音楽作りや表現には評価を得ている。これまでに木川田澄、木川田温子、折江忠道の各氏に師事。びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバー。

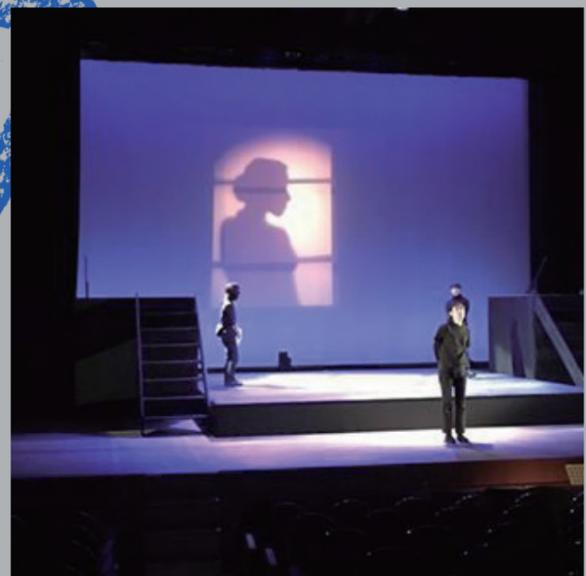


ピアノ◎武知朋子(たけち ともこ)

京都市立堀川音楽高校、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。ミュンヘンにてM・シュリューター、カールスルーエにてW・ヤーンの室内楽マスターコース修了。その他ミラノ、ウィーンにおいても研鑽。'95友愛ドイツ歌曲コンクールにおいて最優秀伴奏者賞受賞。'03トステイ国際コンクールにおいてトスティ・ピアノ賞受賞。第17回京都芸術祭において最優秀協演賞受賞。様々なジャンルの音楽家との共演、音楽コンクールにおいて伴奏、創作オペラのヨーロッパ公演などアンサンブルピアニストとして活動。



モノオペラ『人間の声』(京都芸術センター, 2014)



『子どもと魔法』(津リージョンプラザ, 2015)

小さなオペラ『木の匙』

日時：12月8日(金)開場18:30 開演19:00
10日(日)開場15:30 開演16:00

会場：講堂

演出：乃村健一 出演：乃村八千代、砂場拓也、武知朋子

料金：一般前売3,000円/当日3,500円

学生前売2,000円/当日2,500円

主催：乃村健一、京都芸術センター

※イベント情報(P2)をご覧ください

TOPIC 02

アートマネジメント研修プログラム2017 ～アートプロジェクト編～



アートマネジメント研修プログラム2016～古典芸能編～のようす

ますますジャンル横断的に広がる芸術文化の現場のなかで、マネジメントに取り組んでいく人に向けた研修プログラム。昨年度の「古典芸能編」に引き続き、本年度は「アートプロジェクト編」を開講します。

「アートプロジェクト」と聞いて、みなさんはどのようなものを思い浮かべるでしょうか。コラボレーションによる制作企画や、ギャラリーや美術館以外での展覧会、あるいは地域や社会の課題と結びついたプロジェクトでしょうか。近年隆盛の芸術祭を連想する人もいるかもしれませんが。広い意味では、そのいずれもが正解だと言えるでしょう。

とはいえ、多くの「アートプロジェクト」は地域とアートの関わりを求めるところで実施されています。主催者や作家とともに、現場で起こる様々な事態に対処し、地域の人々や行政などと地道に調整する必要があります。しかもその成果として、地域にささやかな状況の変化があったとしても、それをプロジェクトの成果として実感しづらいこともしばしばです。このようなアートプロジェクトに、わたしたちが期待している「成功」とはどのようなものなのでしょうか？

今回は「失敗するアートプロジェクト」をテーマに連続講座を開講します。障がい者と芸術の場に造詣が深い長津結一郎の概論から始まり、乱立するプロジェクトを「地域アート」と名指し批評を試みた藤田直哉の講座、地域と密接に結び付いた芸術の場であるゲストハウス「ココローム」(大阪市西成区)にて上田暇奈代による実地研修、別府・鳥取・東京等の地域でプロジェクトを手掛けてきたディレクター林曉甫による事例紹介を経て、観光のスペシャリスト陸奥賢の手ほどきのもと京都の街を実際に歩き、

土地の魅力と課題を探ります。最終日には、アーティストの深澤孝史によるワークショップを通して参加者それぞれのプロジェクトへの関わりを再考します。

立場や角度を変えて具体的な事例に触れることで立体的にプロジェクトを捉え、見過ごしがちな顕微鏡を発見する視点を養います。また、陥りやすい「失敗」について考察することから、意外なプロジェクトの「成功」の姿が見えてくるかもしれません。これからアートの現場に踏み込もうとしている方、もうすでに現場にいるけれど、手ごたえに悩んでいる方など、これからの現場を担うみなさんの積極的な参加をお待ちしています。

2020年に向けてこれからますます求められるであろう、アートプロジェクト。やることや関わる人の多さに混乱し疲弊してしまわないよう、私もこの講座を通して、成果をあげず地道に進めていける態度を身に着けたいものです。
谷電一(アートコーディネーター)

アートマネジメント研修プログラム2017 ～アートプロジェクト編～

日程：2018年1月15日(月)～20日(土)
会場：京都芸術センター、ゲストハウスとカフェと庭
ココローム(大阪市西成区)ほか
講師：長津結一郎、藤田直哉、上田暇奈代、林曉甫、陸奥賢、深澤孝史
受講料：無料(宿泊・WS材料費等の実費は参加者負担)
定員：10名(要事前申込)
※通し参加を優先。複数回の参加を推奨。申込多数の場合は選考有
対象：芸術文化にかかわる事業企画者、運営者、研究者、または学生
締切：12月17日(日)〔必着〕
※募集情報(P2)もご覧ください

TOPIC 03

KAC TRIAL PROJECT / Co-program カテゴリーC「共同実験」(リサーチ、レクチャー、ワークショップ)採択企画 第10回 森悠子のプロペラプロジェクト ～子ども音楽道場～

弦楽アンサンブルの演奏指導を通じて、子どもたちの可能性を引き出す森悠子のプロペラプロジェクト。今年度は京都芸術センターと主催者が共に事業の運営を行う新しいプログラム、Co-program カテゴリーC(共同実験)採択企画として開催します。

長岡京室内アンサンブルの音楽監督でもあるヴァイオリニスト・森悠子は、長年にわたり多くの音楽家を指導・輩出してきました。プロペラプロジェクトは、森による小中学生を対象とした、2日間集中の弦楽合奏講習会です。受講する子どもたちは初対面、年齢も経験もバラバラです。それぞれの課題に向きあい、そしてお互いの音を聴きあい、ハーモニーを生みだしていきます。

森は、指導する際、技術の差、年齢による理解力の差はあっても、プロのオーケストラ団員と同じように子どもたちに語りかけます。「響きを聴く」ことの大切さや、立ち方、呼吸、弓使いなどの工夫を教え、曲のイメージを自分の言葉で語らせたりすることで、子どもたち自身の発見を促しながら合奏練習を進みます。

最終日に実施する公開リハーサルでは、森とともに課題曲に取り組む子どもたちの練習をご覧いただけます。森の独自の指導法はもちろん、彼女の声掛けに反応する子供たちの音の変化を聴くことで、観客も自然と耳が研ぎ澄まされ、弦楽アンサンブルの魅力を再発見する機会となるはず。音楽や教育に携わる方のみならず、どなたにも豊かな響きに触れていただける、驚きいっぱいのプログラムです。

短い期間ながら、子どもたちが自分で考え、成長していく姿は見ているだけでもドキドキします。森さんの指導に興味がある方は、聴講での参加もオススメです！
谷電一(アートコーディネーター)



第10回 森悠子のプロペラプロジェクト～子ども音楽道場～のようす(2017年1月)

第10回 森悠子のプロペラプロジェクト ～子ども音楽道場～

Co-program カテゴリーC「共同実験」(リサーチ、レクチャー、ワークショップ)採択企画。

日時：2018年1月7日(日)、8日(月・祝)10:30～16:00

〔公開リハーサル〕

1月8日(月・祝)開場14:30 開演15:00

会場：講堂

講師：森悠子

教材：バツハ/2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043(ダブルコンサート)

料金：〔受講料〕両日12,000円/1日7,000円

〔聴講料〕1日1,000円

※公開リハーサルは入場無料

対象：ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバスのいずれかの楽器を習っている小・中学生

主催：NPO法人音楽への道CEM、京都芸術センター

問合せ・申込：NPO法人音楽への道CEM

TEL：075-351-5004 E-mail：office@musiccem.org

※イベント情報(P2)もご覧ください

TOPIC 04

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018 パフォーミング・アーツ部門 招聘アーティスト発表！

京都芸術センターのアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、次年度に滞在制作を行うアーティストをヴィジュアル・アーツ部門とパフォーミング・アーツ部門から隔年で交互に募集しています。今年はパフォーミング・アーツ部門より、合計330件という過去最多の応募数の中から1名のアーティストを選出しました！

今回の狭き門をくぐったのは、キプロス出身・ザルツブルク(オーストリア)在住の作曲家兼指揮者であるマリオス・ヨアンノー・エリア。ダンス・演劇・音楽・その他(クロスジャンル)から成るパフォーミング・アーツ部門ですが、公募プログラムでは、音楽ジャンルからの招聘は初となります。

エリアは典型的な音楽や伝統のイメージから解放された自由な発想のもと、世界各地で精力的に活動しています。モーターバイクを出演者と見立て曲中激しくエンジン音を吹かせるという彼のアプローチは、いかに普段私たちが楽器という固定観念にとらわれているのか、という刺激に満ちた問いかけと言えるでしょう。

彼が計画中のプロジェクトは、フィールドレコーディングをベースに京都という都市のポートレートを作曲するというもの。京都で活動するミュージシャンとの協働も熱望しています。数々のオペラやオーケストラピースをつくりあげてきた確かな経験をふまえ、審査会で非常にチャーミングと評された彼のセンスによって織りなされる新しい京都の情景へ、ぜひご期待ください。

ウェブサイトには最終選考まで進んだ7組のアーティストを紹介しています。ぜひ合わせてチェックしてみてください！
平野春菜(アートコーディネーター)



Photo by Nikolas Kostis

Since 1971
MAEDA'S COFFEE
KYOTO ART CENTER 1F
MIYOMACHI, TAKOYAKUSHI
NAKAGYOKU, KYOTO
TEL.075-221-2224
10:00～21:30 everyday

林勇気
『電源を切ると何も見えなくなる事』
2016年4月5日～5月22日
展覧会カタログ 定価 500円(税込)
京都芸術センター窓口、もしくは下記ウェブサイトよりご注文いただけます。
<http://www.kac.or.jp/shop/>

KYOTO ART CENTER 京都芸術センター



交通案内
○市営地下鉄烏丸線「四條」駅/
阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
○市バス「四條烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間
○ギャラリー・図書室・情報コーナー 10:00～20:00
談話室・チケット窓口 10:00～21:30
○カフェ 10:00～21:30
○制作室、事務室 10:00～22:00

休館日
12月26日から1月4日

〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000 FAX：075-213-1004
E-mail：info@kac.or.jp URL：http://www.kac.or.jp/
twitter：@Kyoto_artcenter
facebook：http://www.facebook.com/kyotoartcenter

